

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：家畜保健衛生費

事業名 新 獣医師人材育成プロジェクト事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 家畜防疫対策課 防疫対策係 電話番号：058-272-1111(内 2879)

E-mail：c11449@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 4,461千円（前年度予算額：0千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	4,461	0	0	0	0	0	0	0	4,461
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

豚熱については、令和元年の豚へのワクチン接種開始以降、県内農場での発生は抑えられてきたが、令和2年9月、他県の接種農場で発生が確認されている。また、より感染力が強くワクチンがないアフリカ豚熱が、アジアや欧州で猛威を振るっており、国内侵入リスクの高まりが懸念されている。

こうした中、アフリカ豚熱発生時の防疫対応の検討、家畜伝染病に対する適切な検査・予防及び専門的知見を持った農場指導を行うため、県の家畜防疫員（獣医師）にはスキル及び有事に対するマネジメント能力の向上が求められている。

(2) 事業内容

家畜伝染病対策に関する知見及び技術を習得するため、海外及び国内の研究機関及び大学等へ家畜防疫員（獣医師）を派遣する。

派遣後には、農場における飼養衛生管理の更なる強化、適切な防疫措置計画の策定、家畜伝染病のまん延防止対策の参考にするほか、当該派遣・研修制度を広く広報し、県職員獣医師の確保対策の一助とする。

〔研修内容〕

①防疫対応

アフリカ豚熱の検査から防疫、そして発表までを一貫して実施する体制やマネジメント、さらには効率的な研究・検査方法等について習得

※令和3年度は派遣に向けた調整を実施

②検査／予防対策

豚熱の検査技術並びに検査結果をもとにした調査・分析手法について習得

③予防対策（野生いのしし対策）

いのししの生態を熟知している専門家に学び、いのししが嫌うもの（音や振動など）を研究しながら、農場にいのししが近づかない対策を講じるための知見を習得

④農場指導

一貫した農場飼育・飼養衛生管理指導のノウハウについて専門的な知識を習得

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	2,892	職員旅費
役務費	69	携帯電話通話料、データ通信費用（海外派遣）
業務委託料	1,339	通訳手配、移動車手配（海外派遣）
使用料及び賃借料	18	携帯電話レンタル（海外派遣）
負担金	143	受託研究員研究料
計	4,461	

決定額の考え方

4 参考事項

（1）各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略（R1～5）
 - 2 健やかで安らかな地域づくり
 - （2）安らかに暮らせる地域
 - ④災害と危機事案に強い岐阜県づくり
- ・新「ぎふ農業・農村基本計画」（R3～7）
 - （2）安心で身近な「ぎふの食」づくり
 - ④家畜伝染病に対応できる畜産産地づくり

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 海外における発生地において効果的な防疫対応や検査体制が確立している研究機関や大学等へ家畜防疫員である獣医師を派遣する。
 派遣後には、上記機関等で習得したスキルを農場における防疫対策や検査体制の確立の参考とするほか、当該派遣・研修制度を広く広報し、県職員獣医師の確保対策の一助とする。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移	現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目 標	達成率
	(H)	(H) (H)	(H)	(H)	%
	(H)	(H) (H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

農場の防疫対策及び検査体制の確立並びに県職員獣医師の人材育成が主な目的であり、その成果を定量的に測定することはできない。

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
○	<p>近隣諸国でASFが感染拡大し、国内への侵入が危惧される中、農場における防疫対策や検査体制の確立は喫緊の課題であり、獣医師のスキルアップが欠かせない。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
-	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
-	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 獣医師の資質向上に寄与する研修プログラムの策定が必要である。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 初年度事業の実績を踏まえ、必要に応じて派遣先及び研修プログラムの内容の見直しを行う。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	